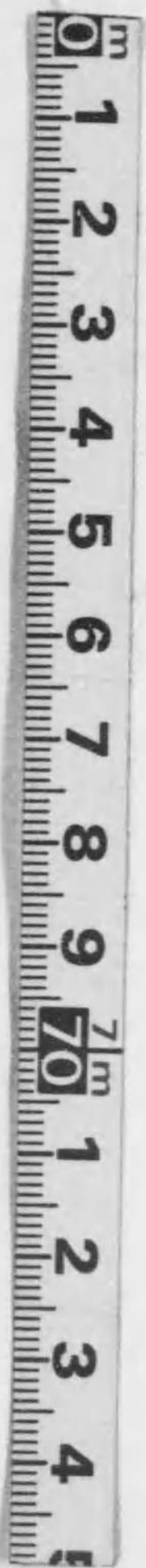


大正十年三月

日露協會報告

西比利亞に於ける農具

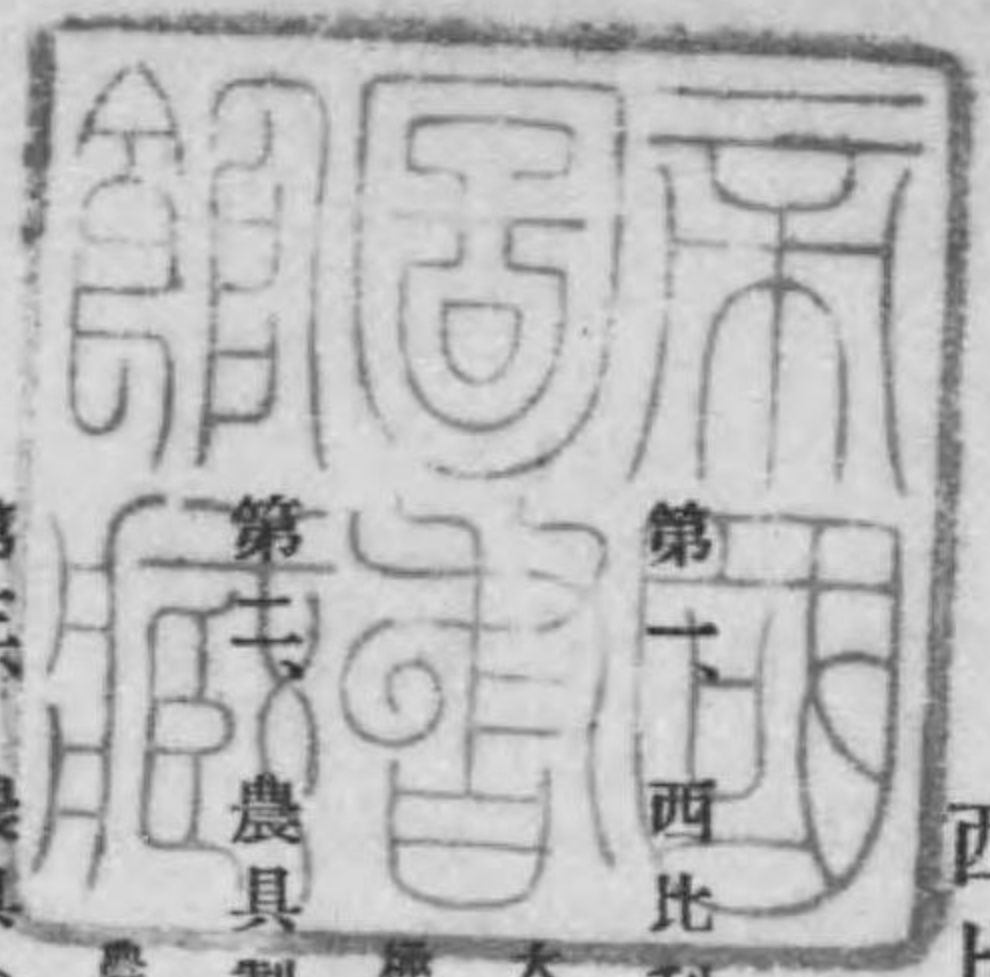
九



始



西比利亞に於ける農具 目次



第一 西比利亞の農業と農具.....

大農具使用の理由——大農具使用と土地分配——大農具使用の状況——
極東露領に於ける農具使用の状況——大農場の農具

第二 農具製造及販賣.....

農具の製造——農具販賣

第三 農具の取引.....

地方取引——輸入——輸入農具品目——結論

大正
10.4.16
寄贈

リ
今
寄
贈
本

西比利亞に於ける農具

第一 西比利亞の農業と農具

大農具使用の理由

西比利亞の開拓は近世の事に屬し露國當局の植民政策に依つて人口の増加を來たし一般産業の發達を促した。由來西比利亞の地は流刑地を以て看做され天候餘りに寒冷なると廣漠たる不毛の原野が多いが爲めに經濟的發展も文化の發達も熱帯植民地の夫れの如くなるを得なかつた。且つ西比利亞—極東露領—建設の爲めの移民に諸々の點に於て歐羅巴諸國の植民とは異なる事情を有して居る。即ち歐露面積の廣大なる事、農民の文化が低級である事及農民の貯蓄が少ない事等が相集まつて亞細亞露西亞の移民の發達を遲滞せしめ従つて此の地の農業の發展を阻止した。

然し當局の植民政策は漸次奏功し人口の増加は遂に左表の如き數を示すに至つた。



14.5-4

州	縣	面積	一八九七年	一九一六年
トボリスク	縣	一、一六六、三〇〇 <small>平方露里</small>	一、四三三、五九五 <small>人</small>	二、〇一五、八五〇 <small>人</small>
アルタイスク	縣	七五七、九〇〇	一、九二七、九三二	四、一四七、二九〇
エニセイスク	縣	二、二九七、一五〇	五七〇、二五五	九九八、四一六
イルクーツスク	縣	七八六、三五〇	五一五、〇七二	七七三、一六〇
後貝加爾州		五三八、八九〇	六七二、〇七二	八九六、三五九
ヤクーツスク州		三、三三一、五二〇	二六九、一九一	二七一、三四五
黒龍州		三九三、四四〇	一二〇、三〇六	三三七、四二九
沿海州		四八〇、九三〇	一八八、九七七	五五二、七六四
勸察加州		一、一三九、五三四	三四、六五八	四一、四〇〇
薩哈噠州		三三、四〇〇	二八、一一三	一五、〇〇〇
アクモリンスク州		四三七、一九〇	六八二、六〇八	一、五二八、八三〇
セミパラチンスク州		四四九、八五〇	六八四、五九〇	九八一、四三四
計		一一、八一二、四五四	七、一二七、三六九	一二、五五九、二七七

既往十九箇年間に於て五百四十三萬一千九百十人即ち年々約二十八萬五千九

百人宛の増加は西比利亞發展の基礎を爲したのである。
 西比利亞の發達を促したものは人口増加であり人口増加を促したものは植民政策の如何に依る事勿論乍ら西比利亞交通機關の整備も與る所極めて大きい。西比利亞縱貫鐵道—オムスク鐵道、トムスク鐵道、後貝加爾鐵道、黒龍鐵道、烏蘇里鐵道、更に東清鐵道の完成を以て歐露と太平洋との連絡全く成り西比利亞交通の一紀元を劃した。

交通機關が斯く迄に發達しなかつた時代—歐露との連絡がなかつた時代に在つては西比利亞特に極東露領は未開の地域であつて土着住民は原始的産業に依つて生計を營まねばならない状態に在つた。放牧民は現在でも少くない。極東露領に在つては特に後貝加爾州に多い様であるが此の種の人民は西比利亞土着の民であつて一箇所に定住して農業を堅實に營む者ではない。されば西比利亞の農業—極東露領の農業は全く露國植民に依つて發達したのである。實に當局の植民政策は農民の移植を計る事を眼目とし西比利亞縱貫鐵道の未完成の時代には海路オデッサ港より浦潮に向け植民を回航した事もあり農業移民には極めて適切な方法を講じ専ら住民の移植に劃策する所があつた。

猶又交通機關の整備せざりし時代では西比利亞は未だ世界の經濟界との交渉薄くして主として歐露の經濟界の關係に於てのみ左右されて居つた然し停む事なき時勢の進展は豐饒なる西比利亞を孤立せしむる筈はなく交通機關の發達、人口の増加からして西比利亞物産の產出が次第に豊富になり交易が行はるゝに至つては西部西比利亞キルギス地方、中部西比利亞、後貝加爾州、黑龍州、沿海州の農耕地は總じて世界の經濟界に迄驅り立てられた。

然りと雖西比利亞の農業は粗放的であり又粗放的であらねばならぬ理由を有して居る。其の第一には人口問題——勞力問題である。一九一六年の人口は約一千二百五十六萬人であつて面積一千八百八十七萬二千平方露里であるから一平方露里に付約一人(強)である。本邦面積に換算して我が一平方里に付約十六人(弱)の人口密度に該當するから人口稀薄なる状態と謂はねばならぬ。人口の大部分は農民であるとしても一九一五年極東露領に於ては農民は人口の七二・一%であつた面積の大より見るならば西比利亞は農業勞働者に非常に缺乏して居る状態に在る。農業經營法が粗放的であつて未だ集的農法に達し得ないのは已むを得ない。西比利亞農業の發達の爲めには其の他にも色々の理由は在るが爾今益々人口増加策を講

ずるの必要がある。

第二には西比利亞の天候は寒冷であつて農耕期間が短かい事である。農耕期は短かく極東露領に於て耕耘着手期は最も早きものにして四月上旬普通四月下旬より五月上旬に亘り、收穫期は八月中旬より九月下旬に終る。之の故に農繁期は極めて多忙であつて集約なる經營を爲す事が出來ず勢ひ粗放的となる。又栽培作物も早熟種の栽培を安全とする。

斯くの如く勞力不足と農耕期の短きに加へて耕地の廣大なる事と相俟つて勢ひ粗放的の農耕を營ましむる事となる。此の粗放的なる事は大農具の使用を有利ならしめる所以である。概して植民地の農業には勞力に不足する所から農具に依つて勞力の不足を補はんとし大農具使用の發達は速かである。農民は兎角に保守的であるけれども植民は比較的に進取的精神に富み經營の方法、土地利用法、改良農具の使用等に關して必ずしも生國の舊習を墨守する者ではない。

上述の如き經過にて西比利亞の農業は發達の氣運に向ひ上述の如き理由を以て大農具の使用益々盛ならんとする。現に西比利亞に於ける大農具の使用は歐露よりも盛にして農家の所有する數は遙かに多いのである。

大農具使用と土地分配

農業發達の爲めには土地の分配を適當ならしむを要す。土地分配が適當ならざるに於ては農業の發達も農村の繁榮も將又農民階級の向上も望む事が出来ぬ。歐露農民が貧困であつて文化程度が極めて低く農業の發達不充分なるのも全く此れが原因に依るものである。實に歐露の土地分配の狀況は最悪の標本と稱せられである。露國は一八六一年農奴解放を斷行して農民を共有地に復歸せしめたけれども十九世紀後半には明白に三階級の農民に分れた。即ち少數の富農、大多數の貧農と土地的無産階級とに分れた。土地的無産階級に屬する農民は都市の無産階級と相似の思想を有し社會問題的意義を有する。勞農政府に加擔する農民は大部分は此の階級に屬する。

斯くの如き農民階級の分立は一國の農業發達上好ましくならぬ現象にして他の諸々なる原因と相俟ちて歐露農業の發展の障害であつた。西比利亞の土地分配に對して當局の植民政策は頗る留意する所があつた。一九〇一年以前の移民に對しては當局は農家一戸當り百「デシヤチン」を割當てたるも移民局は調査の結果割當地區の全部が利用せられずして諸々の弊害を醸成する虞ありと認め一九〇一年

以降の移民には大人、小人の別なく一人に付十五「デシヤチン」を割當て農民の使用耕地の分配を可及的均等ならしめんとした。此の故に西比利亞の土地分配は歐露の如き極端なる農民階級の分立を來たさなない。此の事實は大農具の使用を有利ならしむる一因である。歐露に於ても大農具の使用は進歩したけれども、西比利亞移民が完全なる機械を使用する點に於ても又其の數に於ても遙かに母國を凌駕して居る。西比利亞の農業狀態が米國と相似の點がある事から米國との關係も生れたのである。

大農具使用の狀況

一九一〇年の統計に依れば亞細亞露西亞に於ける農業移民の農業器具機械調達の狀態は歐露の農民よりも約一・四倍多く有して居つた。西比利亞の農民は農家平均一戸當り二個四分の一の農具を有し歐露農民に在りては一箇五分の四を有する割合であつて其の數に於て歐露よりも多いのである。

又農具の品質に就いて觀察するに西比利亞農民の有する農具は歐露農民の夫れよりも優秀である。西比利亞及「ステブ」地方に於ては農具百箇の内完全なるもの七六・六%を占めて居るが歐露に在りては五七・一%を有するに過ぎない。此の關係

を主なる農具各種別にして見ると次の如くである。

耕耘機の完全なるものは西比利亞に於ては三七・五%歐露に於ては三二・〇%であつて耙耕機の完全なるものは西比利亞に於ては九四・五%歐露に於ては七〇・九%である。又收穫機は西比利亞に於ては九九・〇%の完全なるものを有し歐露に於ては九八・一%を有し何れもの種類に就いて見ると西比利亞は完全なる機械を多く有して居る。

歐露農民の有する鐵製犁は耕作器械に對して二九・六%に當り西部西比利亞では三一・一%に當りスラツプ地方では八一・七%に上り東部西比利亞は少くして二二・一%を示し土耳其斯坦は最も少く僅かに七・二%に當るに過ぎぬ。

右の外歐露に於て最も廣く使用せらるゝものは鍍別機であるが西比利亞に於ては鍍別機の使用は比較的少ないけれども猶歐露よりも利用範圍が廣い。

收穫機、即ち刈禾機、脱穀機特に草刈機及馬耙の使用廣く行はれる。草刈機は統計に依ると西部西比利亞に於ては三萬六千五百十九箇であるに對し歐露は村落住民の數が巨莫なるにも係らず草刈機は六萬六千三百八十箇であつて僅かに二倍に過ぎない。又馬耙に就きて見ると西比利亞には三萬八千六百二十七箇存在し歐

露では七萬三千四百二十七箇存し二倍にも達しなす。

脱穀機も亦同様に西比利亞は歐露よりも多い事からして歐露に在つては手工脱穀が多く西比利亞は馬力利用が廣く行はるゝ事を認め得る。收穫機全部に對する刈禾機の割合を見ると西比利亞は二一・五%を占め歐露は一九・〇%を占むるに過ぎぬ。

複雑なる播種機及鐵製の耙耨に關してのみ、西比利亞は歐露に劣つて居る。西比利亞農民は播種機に關して充分なる理解なきものゝ如く一九一〇年頃には約五千箇を出でない。然し歐露に於ては十八萬箇以上の播種機を盛に使用した。

以上の如き農具使用の状況であるが歐露と西比利亞とは自ら農具に相違がある。即ち西比利亞に在りては鐵製犁、收穫機等に於て頗る使用範圍廣く又歐露に在りては播種機及鐵製耙耨の使用廣く行はる。此の事實は右兩地の農業經營狀態の相違を示すものにして前者に在りては粗放的經營にして後者に在りては集約農法に進みつゝある事を示すのである。

西比利亞に於ける農具購入の状況を見るに最近十五箇年間に一億五千萬留圓を、購入し其の初めの五年間には平均各年二百三十萬留圓後の五年には平均各年

二千萬留(圓)を購入した。即ち十五箇年間の趨勢では著しき速度を以て農具の使用が廣まりしを認むる。然し廣大なる耕地の存する事を考ふるならば斯くの如き農具増加も未だ驚くには足らず將來益々農具は増加するに相違なく又此れが使用の増加を計らねばならぬ。

極東露領に於ける農具の狀況

極東露領は西部西比利亞に於けるが如くに大規模なる農業を営まぬ。従つて農業機械使用の程度も劣る。極東露領に於て最も廣く使用せらるる農具は沿海州に在りては犁である。其の數は農家千戸に對して舊住農民(一九〇〇年以前の移民)は平均九百九十九箇を有し殆んど全戸に備付がある。新住農民(一九〇一年以降の移民)は五百六十四箇を有し二戸に付約一箇の割合である。

犁に次ぎて使用廣きは鋸別機、收穫機及草刈機、脱穀機等にして舊住農民と新住農民の所有狀況は農家千戸に對し次の如き數を示す

收穫機及草刈機	舊住農民	一六一箇	新住農民	二一箇
	馬力脱穀機	六八		一八

鋸別機

二五六

四一

舊住農民と新住農民とは農具の所有狀態を異にし前者に於て甚だ多し。此は全く移住の新舊に依つて農民の資産狀態を異にして居る事を示すのである。更に本州に於ける農具所有と移住の新舊との關係を見るに大體次表の通りである。

農具種類	農業中心地方		州平均	
	舊住農民	新住農民	舊住農民	新住農民
耙耨を有するもの	六二・二%	六〇・二%	六五・〇%	五〇・八%
耙耨及脱穀機を有するもの	二・七	一・三	二・七	一・三
耙耨及收穫機を有するもの	一六・五	七・二	一一・三	一・五
耙耨、脱穀機及收穫機を有するもの	六・九	二・二	四・四	〇・五
漁具を有するもの	八・八	一・〇	一二・五	八・三

右表に示せるが如く新移住民は舊移住民よりも各種の農具に就いて所有歩合が少ない。新移住民は農場經營の基礎未だ確立せず必要なる農具を購入する餘力

を有しない。此の故に移民局は農具の供給に關して便宜を計り移民獎勵策の中にも農具の給付を條件として加へて置くのである。

沿海州に於て使用する犁は獨逸のサクク工場製のものが最も多く次ぎには露國ゲン工場製品である。稀に獨逸のエツケルト工場製品及露國のアリサイ工場製のサククの模造品を用ふるも、デイル型は極めて使用少ない。

又收穫機械は加奈太の Massay Harris Co. 製品及 Adrians Platt Co. 製品が最も多く其の種類は主として自動收集刈禾機である。結束機の使用は未だ廣く行はれない。脱穀機の中廣く用ひらるものは馬四頭曳の程穀振落装置を有するものでエルボルチ工場、マイフアルト工場、リブガルト工場等の製品である。蒸氣脱穀機は英國及獨逸製品で此の機械は脱穀に使用せざる時は製粉に使用し得る装置を有す。調製機の大なるものは地方製は殆んどなく全部輸入品と云つてもよい。而して其の型は佛國の「マロー」型である。

黒龍州に於ても使用最も廣いのは犁及馬耙である。犁は米國製が多く用ひられイリノイス州モリリン市の John Deer Co. 製及 Kingman Plough Co. 製の「デイル」型であつて稀に David Bradley Co. 製の「デイル」型を使用す。露國製のものにはオデッサの

ゲン工場製品であるけれども米國製品に比して使用が少ない。哥薩克村落に於ては米國の「デイル」型と共に獨逸の「サクク」工場製の七吋、八吋、十吋犁を併用する。本州の東部に行くに従つて獨逸製品の需要が多くなり同時に露國のゲン工場製も多くなる。又地方に依つては露國のゲリフユリフ、サード製品及英國のランナム製品もある。

沿海州も將又黒龍州も馬耙は一般に家内工業的の簡單なる製品が大多數を占め前述の如く工場製の大なる鐵製耙の使用は比較的少ない。只黒龍州に在りては圓盤耙 (Dise harrow) を使用する。然し沿海州に在りては殆んど使用されてない。後貝加爾州に於ては耕起用農具としては在來犁 (Oxa) が最も多く犁 (HAYE) 此れに次ぐ。整地用農具の中で耙の使用は最も少ない。又收穫機としては馬耙が最も多く使用せられ柄長大鎌は之れに次ぎ刈禾機は第三位に在る。而して農具の使用は年次と共に増加し農業發展と比例する。即ち左表に示す通りである。

類種	一九〇四年		一九一一年	
	農民	哥薩克民	農民	哥薩克民
計	三六	四	三九	一三
刈禾機	五	一	五	一

大鎌	七	三〇二	五	四三	七四	二八七	六七七	四、二九〇
馬 耙	一四	六九五	一〇三	九四二	一、〇六四	四、三三六	一、〇三七	六、四一七
結束機	一	一	一	二	一四	二七	三	四
播種機	一〇	二	一	二	二	一六	一	一八
脱穀機	二九	一九〇	六	三五	四六〇	七三	六四	一、三五五
簸別機	三四〇	三三三	六	七四	一九三	三、四六六	三〇九	三、六四七
耙 耨	一	一	一	一	二	三〇	一	五
犁	二九二	四八	五	七五	九、八八七	六、〇八三	三、三九一	一九、三六一
在來犁	五、三四三	一	一	五、三四三	三五、五四九	二、一三〇	一三、七〇八	六〇、三六七
藁切機	一	一	一	一	七	二	一	七
合計	六、三五	二、三五九	二九	八、八六三	四八、六五九	二九、八四三	一九、三三四	九七、八七五

農具の使用は既往七箇年に大なる發達を遂げた。農具總數に於ては露國農民の所有數が最も多く哥薩克農民之れに次ぐ。然し露國農民が所有する農具の大部分は犁及在來犁であるが之を除けば哥薩克農民は大農具の所有に於て優れて居る。土民の所有農具は最も少ないけれども七箇年間に於ける發達に就いては見るべ

きものがある。

大農場の農具

農場に備付くべき農具の種類及員數は農場面積に依つて決定すべきものなるが西比利亞に於ける大農場備付の農具に關しては適切なる記載を缺くが故に歐

洲「マイノフ」農學校附屬農場備付の農具を參考として記述すべし。
 「マイノフ」農學校は「チェリニコフ」縣シチアストノフ村に在つて附屬農場の耕地三百六十八「デシヤチン」に對して備付の農具は左の通りである。

耕作	數量
單犁 八吋、十吋、十四吋	二六箇
複犁 二、三、四	九
除草器	一八
鐵製耙耨及其他	一五八
木製耙耨	二
掘整器	一

秤	耕	種	輸	有	荷	運	乾	牧	攪	破	製	馬	篩
	作		送	蓋		搬	草	場	土	碎	牧	鈴	別
	用	各	馬	荷		用	壓	用	器	機	場	薯	器
	桶	種	車	馬	車	具	榨	肥	器	機	用	選	
			車	車	車		機	務			具	別	
								器			機	器	

七 九 二八 二〇 一六 一 一 一 一 二 一 一

求	ハ	撰	唐	蒸	馬	馬	結	刈	草	施	各	簡	牧	條
心	ル	別		汽	力		束	禾	刈	肥	種	單	草	播
	イ			力	脫						播	なる	撒	播
	ノ			脫	穀						種	在	播	播
	一			穀	機						種	來	種	機
機	ク	機	箕	機	機	耙	機	機	機	機	機	種	機	機

一 二 二 二 一 一 二 一 二 三 一 一 二 一 二

鋸	剪	鋤	鋤	果	園	果	噴	園	右	自	撒	押	葉	燕
各	枝	各		實	藝	實	霧	藝	價	動	布	切	桿	菁
種	缺	種		收	用	乾	器	用	額	秤	用	器	切	切
				穫	犁	燥	器	器		秤	ポン	器	斷	斷
				器	器	器					プ	器	器	器

九	四	八	九	一	二	一	八		八	六	八	留	一	一	一	二	二
---	---	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---

飼	右	圓	輪	分	殺	攪	秤	製	計	桶	ボ	驚	斧	消
畜	價	筒	轉	離	菌	拌		酪	價	ン				火
器	額	罐	機	器	罐	器		器	額	ブ	口			用
具								械						具

六	〇	三	留	二	七	一	一	一	二	三	四	七	八	六	留	三	〇	二	二	一	四
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

截	根	刀	一
果實乾燥壓搾器			一
右	價	額	六二六留
右	總	計	六八八三

以上の農具は、マイノフ農學校附屬農場に使用するものなるが生徒の實習用にも供するものなれば普通の大農場とは稍趣きを異にする。然し耕地三百六十八、デシャチンに對して農具資本六千八百八十三留にして一、デシャチン當り十八留七十哥である。Krafft氏に依ると百、ヘクタールの農場に於て一、ヘクタールに付農具資本八〇—一二〇、マルクを最大とし四〇—八〇、マルクを中庸、三〇—四〇、マルクを最少なるものと見てある。此を、マイノフ農場の農具資本に比較するならば、マイノフ農場の農具資本は大なりと謂ふを得ず。一、マルクを大略露貨五十哥と見て Krafft氏の最少に該當する。其れ故に歐露及西比利亞に於ける大農場の農具資本も大體「マイノフ」農場の農具資本を標準として支障なきが如し。

第二 農具製造及販賣

農具の製造

農民の使用する小農具例へば手耙、鎌、在來犁、熊手、シェプロ等は村落又は地方都市に於ける手工業の製造に係る。一般手工業は西部西比利亞地方に於て比較的發達し東部西比利亞地方は甚だ不振の状態に在つて簡單なる農具以外は地方的の製造がない。又工場工業も農具製造に迄發達して居らぬ。工場工業に於て比較的發達せるは食品工業にして製粉、醸造等は其の主なるものだ。殊に極東露領地方に在りては工場工業發達せず従つて工場製農具は歐露よりの移入及外國輸入品である。

露國當局は移民開始當時重要なる手工業の發達を期すべく木工業、皮革業、織物業、陶工業、農具製造等は手工に適するものと認め此れが發達を助力した。此れが爲めに規範工場を設置し教師をして指導せしめ、熟練職工を招き範を示し且つ原料及製造用具さいも給付した。然し西比利亞の農業に於ては手工製の小農具にては満足する事が出来ず次第に大農具の需要を喚起し外國より供給を仰ぐに至つた。歐露に於ても大農具の製造は餘り發達して居らず、主として外國製品を使用して居るが一九一二年及一九一三年に於ける露國の農具製造高を示すと左表の如

くである。

種名	一九一二年		一九一三年	
	留	留	留	留
犁	九、一二九、〇〇〇	〇	一〇、五九二、〇〇〇	〇
播種機	八、三〇三、〇〇〇	〇	八、一六五、〇〇〇	〇
刈取機	九、七八〇、〇〇〇	〇	九、〇〇六、〇〇〇	〇
自投装置刈取機	七七七、〇〇〇	〇	一、七〇五、〇〇〇	〇
移動装置打禾機	一〇、八八六、〇〇〇	〇	一三、一三七、〇〇〇	〇
其他農業機械	一三、七五三、〇〇〇	〇	一五、五六二、〇〇〇	〇
計	五二、六二八、〇〇〇	〇	五八、一六七、〇〇〇	〇

此の二年間を比較するに後年に於て各種の品目悉く製造高を増加し農具製造の進歩を示して居る、更に一九一二年に於ける品目別に製造高を表示すると左の通りである。(土地整理及農務局農具部統計に依る。1は數量にして單位は箇、2は價額にして單位は留)

工場總數	トホリス	トムスク	黒龍州	沿海州	ラルカイ	アリモリ	西比利亞	全露
1	1	1	1	1	1	1	1	1

種名	一九一二年		一九一三年	
	留	留	留	留
犁	九、一二九、〇〇〇	〇	一〇、五九二、〇〇〇	〇
播種機	八、三〇三、〇〇〇	〇	八、一六五、〇〇〇	〇
刈取機	九、七八〇、〇〇〇	〇	九、〇〇六、〇〇〇	〇
自投装置刈取機	七七七、〇〇〇	〇	一、七〇五、〇〇〇	〇
移動装置打禾機	一〇、八八六、〇〇〇	〇	一三、一三七、〇〇〇	〇
其他農業機械	一三、七五三、〇〇〇	〇	一五、五六二、〇〇〇	〇
計	五二、六二八、〇〇〇	〇	五八、一六七、〇〇〇	〇
作機土機耕	100,000	0	100,000	0
其他耕機	100,000	0	100,000	0
撒播機	100,000	0	100,000	0
條播機	100,000	0	100,000	0
向日突	100,000	0	100,000	0
大豆用	100,000	0	100,000	0
大	100,000	0	100,000	0
草刈機	100,000	0	100,000	0
馬力刈禾機	100,000	0	100,000	0
乾草壓持機	100,000	0	100,000	0
草刈機	100,000	0	100,000	0
自投装置	100,000	0	100,000	0
なきもの	100,000	0	100,000	0

複	各種犁及「カルチベーター」	一一三	三、三九五、八一〇
條	播 機	九〇、九二七	一、五四四、六三六
撒	播 機	一、二七八	七八、四五五
施	肥 機	五、六六四	三九三、七〇三
柄	長 鎌 機	三一六一一	三、一九九、七一六
草	刈 機	一、八九二	四六一、九二五
馬	力 刈 禾 機	一、二一五、四七六	三四五、九四四
乾	草 壓 搾 器	七、一七二	六二六、三八七
小	收穫機簡單式ラボグレイキ	五二	一、九三三
自	動 收 穫 機	七二三	三六七、三二九
結	束 機	二、三五二、九五七	四六四、三九二
脱	穀 機 手 用	五八、八六〇	六、一七一、三三三
		二、五五七六	三、〇六五、八八五
		二、八〇六	五九四、二〇一
		二、八六七	一七八、〇四三

同	馬 用	二七、七三七	六、〇六七、六五七
同	蒸 汽	一〇七	一〇九、三五五
玉蜀黍、豌豆、向日葵脱粒機		三、〇七六	四九、三七四
脱穀機附馬力應用齒車		二九、六七八	四、一八三、七六三
其 他		五三、三六三	一、六一五、二三八
篩 別 器		一三一	一六、四二一
精 白 選 別 機		三〇二	四〇、二六六
桿 切、根 切、挽 割 機		一六、九〇九	四一一、四九二
發 動 機 蒸 汽 機 關		一九四	四三九、六三五
内 火 式 發 動 機		二、一九七	二、四二六、七六九
ホ		五二〇	二一二
穀 類 乾 燥 器		一二五	六一、八七二
榨 油 器		一、一五〇	七八、七三三
亞 麻 製 線 器		六六一八	二七四、四四八
其 他 の 農 業 機 械		七八五、八〇七	五二〇、七二〇

豫備部分品

計

二、四二八、一二七
四、九五五、七二九
四三、二二八、三五七

二八

之を要するに露國に於ては農具製造は國內の需要を充たす程には發達せず殊に西比利亞地方に於て然りとする。表示する所に依れば全露の農具製造高五千二百六十三萬留に對して西比利亞は三十一萬留を占むるに過ぎず。就中極東地方の農具製造高は少く工場と認むべきものは黒龍州、沿海州に各二箇所あるのみ。其の産額も前者が三千留後者が二萬七千留と云ふ状態であつて到底需給の圓滑を期すべくもない。爾今農業の發達につれて大農具使用の普及は必然であるに對し農具の地方的供給状態右の如くあるに依り露國の對外通商が圓滿に行はるゝに至らば再び歐露方面に於ても又極東方面に於ても農具の大量輸入が行はるゝものと知る事が出来る。

農具販賣

農民の小農具調達に地方村落及都市に於て行ひ大農具の購入は大都市の外國商館に於て行ふを常とす。沿黒龍地方では主としてクンスト、イ、アルペリス商會、チエリリン商會、ソールベル商會等に於て大農具を販賣し地方農民の需要に應じて居

る。農民は近時共同購入の有利なるを自覺し購買組合を組織して地方の商會より購入する事もあれど主として獨逸又は米國より直接輸入の方針を立て、農具購入を爲しつゝある。直接輸入は地方購入より少くも一、二割方低廉であると謂ふ。ラゴヴェステエンスクには米國の International Harvesting Machine Company の支店が在つて該社製品を販賣して居るが猶其の社は西比利亞各地に亘つて倉庫を設け移民局農業倉庫と農具販賣に就いて競争の姿である。

西比利亞全土に亘つて農具の大販賣所は一九一三年に於ては七百六十七であつて其の大多數は西部西比利亞に在る。主要都市の農具販賣所數を擧ぐると左の如し。

オムスク市	二九	セミバラチンスク市	一三
ウステカメノゴルスク市	一一	アクモリンスク市	七
ノヴォニコラエフスク市	一〇	ビイスク市	一五
バルナウル市	一二	クルガン市	九
ミヌシンスク市	六	クラスノヤルスク市	五
知多市	一二	イルクーツク市	五

二九

また一部にて數個所の大販賣所を有するはピイスク郡、バルチウリスク郡、ズメ
イフォルスク郡等にして大販賣所多き地方程農業が盛んである。

農民の農具購入に關して缺くべからざる機關は移民局設置の農業倉庫であつ
て農具大販賣所數の三分の一以上は移民局直營のものである。農業倉庫に依つて
農民は農具購入に就いて多大の便益を受けて居る。

農業倉庫

移民獎勵策として當局が施行せる移民法中には土地の分配、免租、食糧の供給、住
宅費、移住費等に關して規定したる外、役畜、農具等の供給に關しても夫れ々々規定
してある。「アヌーチン」將軍の移民獎勵策には農家一戸に付役畜二頭、牝牛一頭、各
種の種子、農具二十八種、木匠用具及家具若干を給付する事と定められた。

亞細亞露西亞に於ける農民が使用する農業器具機械の三分の一は移民局が國
庫の支辨を以て供給したるものであつて、チエリビヤチエンスク驛の鐵道統計に
依ると歐露より烏拉爾以東に移出せる農具の三分の一は移民局扱ひになつて居

る。再言するに西比利亞鐵道の縦貫に依つて西比利亞の村落經濟は漸次啓發せら
れ延いて西比利亞の外國貿易を發達せしめ擴張せしめ重要な凡ての産業の芽
生を可能ならしめたのであつて、廣漠たる西比利亞の地に移民が陸續として植付
けらるゝや否や地方的の農具取引が起つた。然し乍ら地方取引では新住農民の農
具に對する根本的なる需要を満足する事能はざりしは明瞭である。農具なくては
農耕に従事する能はず農民は非常に困難に遭遇したのである。

茲に於てか移民局は當局指定の農區に移住する農民の爲めに農具を準備すべ
き必要に迫られた。即ち移民局は二策を立て其の一は移民に對して資金貸付であ
り其の二は新事業に對する支出であつた。新事業に對する支出とは地方各地に建
設する官設農業倉庫である。農業倉庫建設の當初は此の事業に關係する官吏の全
部が農業倉庫に就いて理解を有して居らなかつたが爲めに事業成績は悉く成功
とは稱するを得なかつた。

此の農業倉庫は西比利亞の農業とは密接なる關係を有するものであつて此に
對する要求は頗る根本的のものがあつたからして當初の不成績の故を以て全然廢
止するを得なかつた。農業倉庫建設に當りて西比利亞鐵道委員會も或る特別なる

費用を負擔して二箇の官廳に對して支出した。一は内務省移民局、二は農務及國有財産廳であつて此の二官廳は夫れ、農業倉庫を設置した。

斯る次第で二種の農業倉庫が出来上つたが管轄官廳を異にせるが爲めに事業の性質は同一なるにも係らず何等内部的の連絡がなかつた。斯くの如き二重の組織に對する不備が発見せられ全倉庫の統一を計る事に決定し更に農業倉庫の基礎を一層強固にする爲め全部を擧げて移民局の管理に移した。一八九八年三月一日十一箇所の農業倉庫此の流通資本合計十三萬三千留を移民局の所管に移し一九〇一年には新たに三十萬三千留を建設の爲めに支出した。

併合統一の時よりして農業倉庫は商業主義を採用する事となつた其の理由は農具製造の地方的發達を期する爲め將來政府の支出を俟たずして倉庫維持の獨立を計る爲めであつた。此の主義は遂に一九〇一年三月七日西比利亞鐵道委員會の規則として勅令を以て定められた。

此の新らしい方針を基本として農業倉庫活動の細則は前移民局長官現土地整理及農務局總裁ア、フ、グ、リ、ウ、オ、シ、エ、ナ、卿一九一四年の指導の下に定められた。

倉庫設立の當初一八九八年に於ては設置數は四地方(トボリスク、アクモリンス

ク、トムスク、エニセイスク地方)に十一箇所であつた。然るに倉庫の活動は次第に盛になり業務を擴張し倉庫數を増加し地域も年と共に擴大せられ一九一三年には全西比利亞に亘り設置數も二百箇所以上に達した。又私設農業倉庫も少なからず存在し一九一一年五月十五日調査に依ると約六百箇所ある。何れも農具の販賣を管じ。

斯くの如き各種の倉庫を併合すれば一九一一年には烏拉爾以東に於て千箇所以上存在した。

極東露領地方で移民局農業倉庫―農具販賣所―が發達して居るのは沿海州である。一九一一年沿海州に在る倉庫所在地は左の十箇所なり。

浦 潮、	ニコリスク、ウスリースキ、	スバスコエ	
イマン、	ハバロフスク、	ルトココイフカ、	ベトロフカ
オリガ、	アスイチノ、	ウラジミール、アレクサンドロフスコエ	

右の外本州には移民局物品販賣所十一箇所存在しニコラエフフスク港及樺太島に各倉庫一箇所ある。

黒龍州に於てはブラゴウエシチエンスク市に中央倉庫、アレゾイフカ村に一倉

庫が在る。其の他に物品販賣所十四箇所存在す。後貝加爾州に於ては知多市に中央倉庫を設けウエフネウジンスクに一倉庫を立てプシユレイ驛及ビナムに物品販賣所各一箇所を設置した。

西比利亞に於ける農業倉庫の農業器具機械及穀物の販賣高は一八九八年—一九〇二年に至る五箇年間に三百八十萬留即ち各年平均販賣高は七十六萬留である。一九〇三年—一九〇七年間は各種品目を併せて一千二百五十萬留即ち各年平均二百五十萬留であつて一九〇八年—一九一二年間には三千萬留即ち各年平均六百萬留の賣上があつた。既往十五箇年間に於て四千六百五十萬留の賣上があつたが最後の五箇年間の販賣高は最初の五箇年間の八倍である。更に一九一三年には一年で約七百萬留の賣上があつたからして農業倉庫は益々隆盛に向ひつゝある事を示した。

農業倉庫の設置は西比利亞農民にとりては誠に有意義の施設であつて倉庫が着々事業の好成績を挙げつゝあるを見ても知る事が出来る。其の設置の初めに在りては農具の供給を目的としたが業務を擴張し優良なる農具、新式農具の奨励等に盡力する外種子、糧秣、穀物、雜貨の販賣をも營むに至つた。而して其の販賣價額は

比較的安價であつたが故に農具のみならず一般物價の調節作用を有するに至り後には物價調節の中樞機關となるに至つた。此の物價調節の作用は益々農業倉庫をして西比利亞農民には缺くべからざるものたらしめた。一面に於て農業倉庫の必要は次第に加はり他面に於て農業倉庫は利益を挙げ其の挙げたる利益を以て農具の改良、農業教育の振興等に費した。一八九八年より一九一四年一月一日に至る十六箇年に農業倉庫は純益三百九十萬留を得た。其の利益の中から七十萬留以上を教育的方面に支出し一九〇三年には西比利亞唯一の農具學校を設立し器械技手の養成に努め學校附屬として農具修理工場を設けた。又其の利益中から十萬留を支出してタルスキ地方に於ける林産物開發の爲めに使用した。更に又五萬留を支出して住民の知らざる優良農具を紹介する爲めの展覽會を開催し併せて西比利亞市場に向つて新らしい農業機械を作る試験費に充當したのである。

移民局の農業倉庫の農具販賣方法は戦前には三箇月、六箇月の月賦償還法を採用したが開戦後は現金となつた。而して移民局販賣の農具は主として米國輸入品で獨逸製品も尠くない。

西比利亞に於ては官設農業倉庫の外に私設農業倉庫がある。此の私設農業倉庫

は農具の供給に於ても重要な役目を有するが食料援助の意義に於て更に大なる意義を有す。又官設農業倉庫の食料部の爲めに一九〇七年の末期からオムスク市に於ける農業倉庫本部附屬として特別食糧部を設置し官設二十二箇所の穀物倉庫の監督を司らしめた。

二十二箇所の穀物倉庫の収容力は約百萬布度にして其の内十箇所は阿克モリンスク州に、四箇所はトボリスク縣トムスク縣の西比利亞鐵道沿線に在る。中央食糧部は穀物倉庫事務員を監督し作物豊作の場合には買入れを行ひ必要な場合には自治團體の要求に應じて穀物の保管其の他農民と農耕に必要な事項を司つる。

トボリスク縣、阿克モリンスク州、ツルガイスク州に於て一九一一年—一九一二年に亘る凶作の場合食糧部は大に其の作用を發揮した。一九一一年八月末日迄に二百六十萬布度の種子を準備し更に冬季間に指定の地域にて九十六萬布度を調達し之を飢饉地に發送して必要な場合に必要の人に分與した。同時に倉庫は凶作諸縣に對して食料種子供給の任務を有するを以て倉庫は阿克モリンスク州、ツルガイスク州、ベルム縣、オレンブルグ縣、トボリスク縣の住民に食料種子の供給を當

局より委託された。斯る事業に對する準備は年と共に發達して一九一二年末迄に内務省支出の一千三百萬布度の食料種子を供給した。倉庫事務員の任務は頗る困難であつて穀類の買集めには生産地に於て少量宛直接生産する農民及移民に就いて行つた。又買集めたる穀物を鐵道沿線迄運搬するに困難があつた。更に此を飢饉地に輸送するに困難があつた。斯る困難があつたにも係らず倉庫は次第に好成績を擧げ一九一一年—一九一二年に於て國民食糧問題の解決には缺くべからざる施設なる事を證明した。此の故を以て一九一三年一月十二日露國政府は閣議にて取り敢へずトボリスク縣、ツルガイ州に於て官設穀物倉庫を増加するべく百二十萬留支出の事に決定し、將來極東露領にも穀物倉庫を建設するの必要を承認したのである。

第三 農具の取引

地方取引

西比利亞に於ける農具の地方取引は一般商品の取引と同様にして前述の如く農民は在來の小農具は村落にて調達し大器具は外國商館支店又は外國直輸入の

方法を講じて居る。又農業倉庫の販賣法も前述の如くなるが然らば移民局農業倉庫販賣の農具の種類及數量如何と云ふに一九一三年に於ては大體左の通りであつた。

種類	數量(箇)	價額(留)
單犁	三五七九四	八三二、五四四
複犁	四、一九八	一八八、四六〇
犁及播種機結合	一九三四	一三一、〇八五
カルチベーター	四九七	二四、〇八四
ハロー	一、〇一〇	二五、三三〇
撒播機	二六四	三二、〇〇一
撒播機及條播機	四七三	六八、五二四
草刈機	二、九五五	四二九、四七七
集草機	二、九六二	一八五、三四一
刈禾機	一、二〇六	二九八、四九九
露國式刈禾機	三、〇二三	五〇七、四六五

他種の刈禾機	三、一〇四	五八九、六四八
結束機	一、一五〇	四五四、三五七
馬力用脱穀機(工場製)	一、二三四	七二一、一八一
脱穀器(手工製)	一、八四五	四〇九、二八九
唐箕及選別機	六、二〇五	二四〇、四三四
穀粒簸別機	三四七	八三、五二九
製粉石臼(組)	五七六	四六、一六九
亞麻、大麻、綿、調梳器	一五四	二一、六九六
切葉器	三七四	一四、八三〇
打展機(亞麻、大麻用)	六八	四、四六八
乾草壓搾機	一五	二、八四五
搾油機	—	三四、九四九
クリーム、セパレーター	三四三	二八、四五三
攪拌器	一七三	四五、七一
車輪(荷車用)	一、五一四	二四、八七〇

荷車	二、八九一	二六八、五六五
ボンプ	四五	一二、一一三
秤量器	四五四	一七、九一九
小鎌大鎌、研磨器	一、八〇一	二三、六七七
斧	七、二一三	七、二三二
熊手	三、二七一	一、八一
シヤブル	一、三六二	六二七
柄鎌	三、九三九	二、五一二
油差	二、四一五九	七三、四九七
各種の掃除器	二、五三九	一八、六八九
織物	七、一〇九	四、五二八
針金及亞鉛製飾	一、二六二六	五、三九九
調帯(皮革)	二、二〇〇五	二、七七一一
同(ズツク)	二、一〇五二	一、三、三六二
屋根用鐵板	二、一四、一九三	五六七、九七六

四〇

結束用撚糸(布度)	一八、二五四	一六五、六〇六
防水布、袋(枚數)	三〇五、〇五七	一〇九、四二四
穀類及其他生産物(布度)	五三、六七五	五一、四〇一
種	……	一二三、二六五
計		六、六三〇、七六三

右の表で見るとは農具の中で販賣數量の最も多きものは單犁であつて價格に於ても亦單犁である。數量に於て第二位に在るは唐箕及選別機であるが價額に於て第二位に在るは馬力用脱穀機である。然し刈禾機の需要も頗る大にして露國式及其他の刈禾機を併すれば六千個以上を販賣し其の價額約十萬留に上る。

概して移民局販賣に係る農具は大農具が多く小農具は比較的少きを認む。移民局以外にも大農具の賣行あれども其の數量は少く農民の大農具購入は主として移民局に於てする。されば右の販賣數量を見て西比利亞耕地の大なるに比較するならば未だ農具の普及には前途遠く需要の益々加はるべきを想はしむ。

歐露に於ける農具市場の状況を見るに彼得俱羅土地方の農業器具機械の需要は中部露西亞及南部露西亞地方よりも少ない。バルテック州の農業は粗放的經營

四一

が廣く行はれ此の地方に要する農具は多く獨逸よりの輸入品である。又北部露西亞の收穫機は多く小鎌及柄長鎌を使用し戦前に於ては澳太利商人の手に依りて販賣せられたものが多い。英米品も少なからず輸入されたが米國製の小鎌は輸入小鎌の五〇〇%を占めた。

莫斯科地方の農具需要は急激に増加した。此は政府の農業振興策にも依るが、ゼムストヴォの活動も與つて大に力がある。農業振興につれて小農具の製造も大に發達したが猶需要を充たす事が出来ない。

農具の製造は需要の増加に刺戟せられて大に發達し近年著しく進歩したけれども尙國內の需要を充たす事が出来ず年々外國よりの輸入を仰いで居る。一九〇八年以降の輸入額を示せば左の如し。

年次	普通	複雑なるもの	計
一九〇八年	一四、七二九、二五九	七、四一七、五三三	二二、一四六、七九二
一九〇九年	一七、四五三、〇〇〇	一四、七一三、三四四	三二、一六四、三四四
一九一〇年	一七、二九八、五五八	一四、二六三、八〇七	三一、五六二、三六五

一九一一年	二〇、七四九、七五二	二四、三五九、七八〇	四五、一〇九、五三二
一九一二年	二三、七二〇、八七三	二六、六四四、九一五	五〇、三六五、七八八
一九一三年	二四、七八九、七二〇	一三、九三九、二一四	三八、七二八、九三四
一九一四年	一五、二八三、六六五	一五、五八一、七七〇	三〇、八六五、四三五
一九一五年	七〇、七八一、四	六〇、九三三、一三三	一、三一七、一二七

農業器具機械の輸入は年と共に増加し一九〇五年以前は二千萬留に充たざりし所一九一二年には五千萬留を超過するに至つた。連年輸入高は内國製造高以上なりしも一九一五年には戦亂の結果輸入著しく減少した爲めに内國製造は輸入を遙かに超過した。

普通農業機械は一九〇九年には前年に比し約二割方の増加を示し一九一〇年には少しく減少を示せども更に一九一一年には二割餘の増加一九一二年には一割五分の増加を來たした。又複雑なる機械に於ては一九〇九年には一躍して前年の二倍に増加し一九一〇年には少しく減少を來たせども一九一一年には更に七割餘の増加となり一九一二年には猶約一割の増加となつた。然るに一九一三年には前年に比して半減して一九一四年よりは戦亂の爲め輸入振はず一九一五年に

は輸入最も少ない。
 猶右表に就いて重要な事實は普通農具と複雑農具との輸入割合である。複雑農具の輸入増加歩合は普通農具の輸入増加歩合より大にして其の總額に於ても複雑農具は却りて多額となつた。此に依つて見るに露國の農具需要に對しては小農具は國內の生産に依りて供給せられ高級なる農具の輸入は益々盛大になるべきを暗示するものである。
 輸入農具品目

露國に輸入せる農具各種品目に就き一九一二年及開戦後の一九一五年の狀況を表示すれば左の通りである。

種 類	重量(單位布度)		價額(單位留)	
	一九一二年	一九一五年	一九一二年	一九一五年
犁	八六五、四三六	二五、二九	三、六五〇、八六七	一六七、二五
耙	三六八、七六四	四、一八二	三、二一七、六三九	三〇、七七
草刈機、刈禾機、結束機	六四五、八三四	七、七二四	四、三三九、八九一	五〇、六九三
脱穀機	二二、四三七	一六、三四九	一、六〇八、六六	八五、八八

簸別機 唐箕	一、二九、六三六	五、四八〇	一、〇六六、七三九	六九、五八四
播種機	五六三、三〇〇	九、五〇〇	三、〇〇〇、五一七	三八、〇〇〇
乾草、麥稈等壓搾機	三三、六二八	三、三六三	二二四、五二五	一六、〇〇〇
麥稈切、振切機、挽割機	一三三、〇九三	八六九	五八四、九六九	九、六三三
搾油分離器	一一、四〇四	三、五六〇	一一〇、九三〇	四六、三七〇
其の他の農業機械	一、六五七、六三〇	二九、二二八	七、〇一六、一六一	二〇三、四〇〇
小計	四、六一、一一一	一〇五、五三三	三三、七三〇、八七三	七〇七、八二四
結束機付刈禾機	二、七四六、九四八	一八、四四八	一〇、四四三、三三六	六七、九八
自動收集刈禾機	九九六、七八三	五〇、六〇四	六、八六六、八〇〇	二四一、六五
蒸氣犁	七三、八二一	八五三	五三二、五五八	四、六五四
複雑なる「クローバ」種子脱實機	二六、六九四	二四三	二三四、〇四〇	三、一〇〇
複雑なる蒸氣脱實機	六八二、一九一	五八〇	四、三八六、一五三	二、五〇〇
馬力草刈機	四一八、〇三五	七	二、八七七、三八四	一〇〇
馬鈴薯選別機	七、一九〇	一	五九、三五五	一〇
肥料撒布機	三〇、九三五	一	三三一、九四四	一

噴霧器注射器	六、三六九	一五一	五〇、五三五	四、四六八
葡萄割機	三九一	—	一、四〇〇	—
葡萄壓搾機	六二〇	—	四、六三五	—
クリームセパレーター	六三、四三四	二六、八八六	七五三、二〇五	二五〇、四五三
其の他の復雜、完全なる試験場及展覽會用新發明農業機械	三八、九六九	五、一九九	二二三、四四〇	三四、四六五
小計	五、〇九一、三六〇	一一〇、四〇〇	二六、六四四、九五	六〇九、三二三
復雜なる脱穀機及蒸氣犁附屬機關車	八五八、六〇一	七、七九九	六、三五八、二四六	二六、六四九
合計	一〇、五六一、〇八一	一二四、〇〇一	五六、六四四、〇三四	一、四三三、七六六

露國に輸入する農業器具機械の中價額百萬留以上に上るものは十種あるが其の中でも最も多いのは結束機付刈禾機であつて一九一二年には一千萬留以上に達した。此に亞ぐものは自動收集刈禾機である。此等刈禾機の輸入が最も多いと云ふ事は復雜なる農業機械の製作は露國內に於て困難である事を示すのである。同時に收穫季節に於ける勞力の不足を補ふ爲め收穫機の需要が頗る大きい事をも示すのである。草刈機播種機及犁の輸入は何れも三百萬留以上に上つて居る。此等の事實は露國に於ては大農法が行はれ大農具の需要大なる事を示すのである。

大農具に附隨して復雜なる脱穀機及蒸氣犁運轉に使用する機關車の需要も頗る大にして一九一二年には六百三十萬留、一九一三年には七百三十萬留、一九一四年には六百七十萬留にして一九一五年には一般貨物の輸入減と共に大に減退し僅に十二萬留に下つた。蓋し農耕に動力を使用するの途は漸次開かれるものと見らるを得べく露國內の農具製作が發達しても猶外國よりの輸入は通商開始の曉には増大するものと見るを得ん。

戰前迄の露國に輸入せる農業機械は米國製品最も多く第一位を占め獨逸製品は第二位に、英國製品は第三位に在つた。然し各國各々特色を有し輸入品目を異にする。例示すれば犁の輸入は獨逸製品最も多く米國製品は遙かに少く又復雜なる脱穀機及蒸氣犁用の動力機關車は英國製品が最も多い。米國より最も多く輸入する農具は結束機付刈禾機であつて八百萬留以上に上つた。猶主要なる輸入國に就きて輸入價額を表示すれば左の如し。(單位留)

犁	一九二二年	一九一五年	獨逸	英國	獨逸	丁抹	米國	瑞典
	二九、九九九	七、三四	三〇、五三〇	三、三八三、三二	九、〇七〇	二六、三四四	一六、六九〇	—
	—	—	四〇	三、九六〇	三八〇	七三、二〇〇	八六、二九〇	—

其他の農業機械	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年	一九二二年	一九二五年
肥料撒布機	一九二二年	一九二五年	馬鈴薯選別機	一九二二年	一九二五年	馬力刈草機	一九二二年	一九二五年	複雑なる「ク」	一九二二年	一九二五年	複雑なる「ク」	一九二二年	一九二五年	複雑なる「ク」	一九二二年	一九二五年	複雑なる「ク」	一九二二年	一九二五年
16,130	14,650	20,923	3,000	1,920	150	575	342,670	885,156	100	58,360	100	60,500	60,940	878,900	1,311,000	2,500,685	1,715,393	3,100	99,590	3,000
1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955

其他の農業機械	一九二二年	一九二五年	抽油分離器	一九二二年	一九二五年	麥稈切、根切機	一九二二年	一九二五年	乾草麥稈壓搾機	一九二二年	一九二五年	播種機	一九二二年	一九二五年	簸別機、唐箕	一九二二年	一九二五年	脱穀機	一九二二年	一九二五年	草刈機	一九二二年	一九二五年	耙	一九二二年	一九二五年
1,000	4,500	11,735	4,500	1,015	3,655	1,433,987	2,395	1,365	1,403,907	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987	1,433,987
1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955	1955

品名	一九二二年		一九二五年		一九二二年		一九二五年	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
噴霧器、注射器				七、九五〇		三、〇〇〇		一一、二五〇
葡萄割機		四〇				四〇〇		
葡萄壓搾機						四、六二五		
ククリーム、セパレーター		一、五三三		一、三三九〇		二、六六三三		八、二〇七
其の他の複雑完全なる試験場及展覧會用新發明の農業機械		三、〇五〇		八、五三五		五、一八五		七、八二〇
小計		一七〇、四六三		三、九八、一〇八		六、九八、五〇〇		七三、四〇〇
合計		三、一〇、九七五		六、五〇、五八		一七〇、三、八八五		一、〇七、九九五
複雜なる脱穀機及蒸汽犁附屬機關車		二、九、五六一		三、二七〇、一七七		三、五二、六八		七、一八三〇
總計		三、四〇、三五六		九、七七、六九五		一九五、五、四三三		一、〇七、九九五
		一、七二四		七、三、八一		一、一五、〇三三		四、六、五八
								七、六、〇三三
								三、八、一六一

農具の輸入に於ては米國は第一位を占むる事前表の如く頗る巨額の輸入と爲す。前にも述べし通り米國の農業と露國の農業とは大に似通つた點があるからして兩國の農業は密接なる關係を有するに至り露國の農業には米國の農具が缺くべからざるものとなつた。此れに反して本邦は農業經營が全然異なるが爲めに大農具の使用行はれず従つて大農具の製造盛ならざるが故に露國に對し農具の輸入は微々たるものにして特記するに足らず。一九一三年には五十留、一九一四年には五百十五留の輸入を示したに過ぎない。東支國境、太平洋港灣より極東露領に輸入する農具は大部分米國製品と見る事が出来やう。左に一九一二年及一九一五年に於ける極東露領に輸入せる農具一般を表示す。

品名	一九一二年		一九一五年		
	数量	金額	数量	金額	
犁	東支國境	四、四三九	一、九二四	六、八三一	二、〇三三
	太平洋諸港	三、三三三	一、九三九	一、五	二〇〇
耙	東支國境	一、二七〇	七、五四三	三三	二八〇
	太平洋諸港	—	—	—	—
草刈機、刈禾機、結束機	東支國境	—	—	—	—
	太平洋諸港	—	—	—	—
脱穀機	東支國境	—	—	—	—
	太平洋諸港	—	—	—	—

籾別機唐箕	八七	一七五	一八八	五、四〇〇	—	—	四、七五一	六、四、五〇
播種機	一七一	一、五〇〇	一、四一八	四、四〇五	一七	六〇	九、四八三	三、八、〇〇〇
乾草麥稈壓搾機	三、九五五	一、四、四二〇	—	—	—	—	三、一〇〇	一、四、〇〇〇
麥稈切、根切機、攪割機	五〇	三〇〇	—	—	五	二二	—	—
搾油分離機	三三	二八	八〇	三、六五	—	—	—	—
其他の農業機械	二七、九六七	一、四八、二五二	二、五、二九七	九、九、二九三	三	二五八	六、五三五	四〇、九四五
小計	五、三、六三七	二七、一、六〇〇	二七、三、二四一	一〇〇、七、五三八	二七	一、〇三二	五、九、五五五	三三〇、九四三
結束機付刈禾機	九九	二、七四	二、五二七	八、〇五四	—	—	一、七、五九五	六〇、九〇八
自動收集刈禾機	—	—	—	—	—	—	五〇、六〇四	二、四、一、六五
蒸気犁	—	—	—	—	—	—	—	—
復雑なる「フロッパー」種子脱實機	—	—	二、六九	二、〇〇〇	—	—	—	—
復雑なる蒸気脱實機	—	—	—	—	—	—	—	—
馬力草刈機	五、七、七	四〇、五三	—	—	—	—	七	一〇〇
馬鈴薯選別機	—	—	—	九、四	—	—	—	—
肥料撒布機	—	—	—	七、五七〇	—	—	—	—

噴霧器注射機	—	—	—	—	—	—	—	—
葡萄割機	—	—	—	—	—	—	—	—
葡萄壓搾機	—	—	—	—	—	—	—	—
バクリーム、セパレーター	二	二〇一	—	—	—	—	—	—
其他	三三	一五〇	—	—	—	—	六、二二	三、〇〇〇
小計	六、七、四〇	四三、五九八	三、七三〇	一、七、六三四	—	—	六、八、二九	三、〇、五、六三
合計	五、九、三、七七	三、五、二、九六	二、七、九、九五四	一〇、三、五、二五二	二七	一、〇三二	一、三、八、六四	六、三、六、五五
腹雜なる脱穀機及蒸気犁附屬機關車	—	—	二、八〇八	一、三、五五〇	—	—	—	—
總計	五、九、三、七七	三、五、二、九六	二、八、三、七六二	一〇、三、八、七〇二	二七	一、〇三二	一、三、八、六四	六、三、六、五五

東支國境及太平洋諸港より輸入する農業機械は主として極東露領に於て使用するものであるが故に全露の輸入農具とを對比するに左の如し。

	一九二二年		一九一五年	
東支國境	數量	價額	數量	價額
	五、九、三、七七	三、五、二、九六	二、七	一、〇三二
太平洋諸港	數量	價額	數量	價額
	二、八、三、七六二	一〇、三、八、七〇二	一、〇三二	六、三、六、五五

計	三四二、三九	一、五三三、九〇〇	二八、五〇一	六三七、五六六
全露輸入	一〇、五六一、〇八二	五、六三三、〇四四	二、一五、〇〇一	一、五三三、七三六
極東輸入の全露輸入に對する割合%	三二	三三・九	五七・五	四四・五

極東露領に輸入せる農業機械は全露輸入の農業機械に對して一九一二年には二三・九% (價額) に當り、一九一五年には大に歩合を増加して四四・五% となつた。此は戰亂の爲めに歐露の輸入減退せしに依るのであるが極東方面も亦戰亂の爲めに輸入減少を示せども歐露の如く甚しくない。其の理由としては米國よりの輸入は極東露領に於て盛に行はれたからである。

更に又一九一二年に於ても一九一五年に於ても極東露領の中太平洋諸港を通じて輸入せるものは東支國境通關に比して甚だ巨額に上つてゐる。殊に一九一五年に於て然りとす。海洋の利用の便宜からして米國より直接浦潮を始め其の他の諸港に輸入するに至つたのである。此の故に露國に對して農具供給の優位に在るは米國にして歐露方面に於て將又極東方面に於ても然りとす。

結論

上述の如き農具使用發達の過程を経て現在の露國は只益々農具の需要を増加

するのみなるに製造能力之に伴はず各種の農具を輸入しなければならぬ状態に在る。蓋し大量生産の爲めには優秀なる大農具の使用は必要缺くべからざる事敢て多言する迄もない。

加奈陀政府も露國に對して農具輸入の頗る有望なるを認め諸々なる調査を行ひ此に對し何等か企劃する所あるが如くに見ゆる。爾て本邦との關係を見るに本邦は小規模なる集約農法に依り且つ栽培作物の中樞は水稻なるが故に露國とは自ら經營法を異にせねばならず之に従つて使用する農具も異らねばならぬ筈だ。故に米國其の他歐洲諸國が自國の農具を直に輸出するが如くに本邦にとりては其の輸出は容易ではない。

然し乍ら本邦に於て大農具の需要廣からず之が製造も盛ならずとは雖近隣諸國に於て大なる需要地存在するに於ては本邦にて之が製造を行ひ輸出を企つるも敢て異例ではあるまじ。旁々本邦に於ても大農具の使用の餘地あるのみか次第に高級なる機械的作業に依りて耕作せんとする傾向に在るが故に極東露領輸出と相併せて本邦の農業の爲めにも大農具の製造に就いて考慮を要するのである。

14.5
4

大正十年三月三十日印刷
大正十年四月三日發行

(非賣品)

編輯者

關根齊一

印刷者

山田三太郎

印刷所

山田活版所

東京市麴町區內幸町一丁目三番地

發行所

日露協會

電話新橋三三九〇番

終

